平成 27 年度 第 3 回 文化財保護委員会会議録

■日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）午後 7 時 00 分から午後 8 時 00 分

■場所：役場 202 会議室

出席者：島村圭一委員長、中村誠二委員、新井浩文委員、長谷川清一委員、
青木秀雄委員、富澤鎮男委員、菊地正明委員、中村 豊委員
吉羽秀男教育長、佐藤賢治室長、河井伸一主査、小林絹三主任、横内美穂主任

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題
指定文化財の審議について

会議概要

- あいさつ（教育長、島村委員長）
- 指定文化財の審議について（役場 202 会議室）

会議録

あいさつ（吉羽教育長、島村委員長）

議事

島村委員長	これまで調査してきたことを踏まえまして、指定文化財の審議について事務局の方で調書を作成していただきました。事務局の方で説明をお願いします。
河井主査	指定文化財候補である西光院朱印状付御朱印箱、西光院中世文書、絹本着色徳川家康画像、粟田口焼葵紋茶碗について、調書に基づいて説明。
島村委員長	調書の中身について質問等ございましたらお願いします。
新井委員	2 点ほど確認していただきたいものがあるのですが、まず西光院中世文書の中の写しが江戸時代前期のものと判断された根拠を伺いたいのですが。
河井主査	確実に前期とは分からないのですが、まず紙質からみて質の悪いものではありませんし、江戸時代末期や後期ではない印象です。
新井委員	時代は江戸時代にしておいたほうが良いでしょう。
河井主査	分かりました。
新井委員	もう 1 点は家康画像で包紙に最勝院と書いてありますが、最勝院との関係で分かっていることはありますか。

河井主査 今のところありません。

新井委員 この文書は明らかに西光院と最勝院の両方に宛てていて、例えば、西光院と最勝院が本末関係でないとすればなぜ、最勝院が出てくるのかということが気になります。西光院側に関係があるのか調べたほうがいいと思います。

河井主査 最勝院自体に家康画像があるかどうかも分からない状態です。

長谷川委員 現段階では最勝院の調査に入れられない状態で、前回の会議以降に春日部市郷土資料館に確認したところ、画像は確認できていないとのこと。

新井委員 関係文書はありますか。

長谷川委員 最勝院は朱印状が9通確認されています。最も古いものは、三代将軍家光の時代のものです。

河井主査 最勝院は御朱印寺であることは間違いありません。

新井委員 気になるのは、なぜ最勝院の名がここに出てくるのかで、例えば家康画像を直すにあたって、西光院と最勝院が一緒に直しているのかどうかということです。

河井主査 包紙に西光院と最勝院と入っていて、古文書は西光院宛になっています。もしかしたら最勝院宛でもこの包紙に入れられて送られてきた可能性があるということです。

島村委員長 同じ時期に西光院と最勝院に家康画像が送られた可能性があります。

島村委員長 それではこちらは調査中あるいは、今後調査するという方向でよろしいですか。他にお気づきの点ございますか。

富澤委員 栗田口焼葵紋茶碗についてですが、こういうものについて我々素人なので、どのような焼き物なのか、陶器なのか磁器なのか調書には書いていないので、その辺りの記述があれば我々町民からすると、より一層興味をひくことができると思います。

河井主査 栗田口焼葵紋茶碗は陶器です。

富澤委員 調書を見ると、種別：工芸品となっていますが、学芸員から見てどういう工芸品なのか、美的にはどうなのか解説があれば、我々町民からすれば有り難いです。

青木委員 栗田口焼の歴史的側面として工芸品の種別になっていますが、現在、栗田口焼というものが工芸品としてどこに位置づけられるのかというところが問題になってきます。

島村委員長 前回の会議でも話が出たと思いますが、栗田口焼の希少性と焼かれていた期間が短かったことから、歴史的な価値も含めて所見があればお願いします。

長谷川委員 栗田口焼としての裏付けが明確になっていないと、工芸品となった場合

弱いのかなと思われます。歴史的経緯を重視するのも1つの方法かと思われます。この茶碗には粟田口焼の刻印がありますが、粟田口焼の特徴である焼き方であるとか、使用している土などの表現を加えれば、工芸品としても充分理解されると思います。

島村委員長 粟田口焼については前回の会議で、希少的価値があることから工芸品にするということでしたが、この件について意見はありますか。

河井主査 粟田口焼が工芸品として素晴らしいということを書き表す言葉が難しいです。粟田口焼自体が現存しているものが少なくて研究が全く進んでいません。刻印は確かに何点か入った物があり、それらとの類似点もありますがそれ位しか分かりません。

新井委員 因みに、粟田口焼が他の都道府県や市町村で指定文化財になっている所はありますか。

横内主任 2ヶ所程あります。

新井委員 工芸品指定ですか。

横内主任 そうです。

河井主査 粟田口焼の種別に関しては、前回の会議で歴史資料にするよりは工芸品としたほうが価値的に高いため、調書は工芸品という形にはなっただと思うのですが、歴史資料に戻すかどうかの判断をこの場で話し合いたいと思います。

島村委員長 判断としては難しいと思いますが、価値としては歴史的価値だけとか工芸品価値だけとかではないと思います。

横内主任 岡山県高梁市では粟田口焼水指が工芸品で指定されています。

菊地委員 粟田口焼きで他の都道府県の文化財に指定されているもので、葵の紋が入っているものは、ありますか。

横内主任 ありません。

菊地委員 官窯という訳ではないのですか。

河井主査 官窯でもあるし、ないものもあります。粟田焼になると庶民的なものを焼くようになってきます。それ以前の17世紀の粟田口焼の段階においては貴族や将軍家の御用窯でした。

新井委員 粟田口焼の特徴は何ですかというときに、例えば焼く前に乳白色の釉薬をかけるとかはないのですか。

河井主査 瀬戸焼等もそうですが、色々なタイプのものがあります。

西光院で粟田口焼の茶碗を徳川家からもらったという伝承があります。実際に確認したところ、西光院に粟田口焼葵紋茶碗の刻印に類似する、粟田口焼の刻印の入った茶碗が1点ありました。

菊地委員 その茶碗には葵の紋は入っているのですか。

河井主査 入っていないです。葵の紋が入っていて、栗田口焼の刻印が入っているものについては、現存が確認されていません。

横内主任 インターネットで見るとは、葵の紋入りは他にありません。

菊地委員 智積院の日誉上人の関係で賜ったものですか。

河井主査 そうです。徳川三代家光の時代に賜ったという伝承が、西光院に伝わっています。

新井委員 この葵の紋は近世前期のもので、江戸後期には葵の紋は、変化していきます。

長谷川委員 新井委員の話から、栗田口焼葵紋茶碗に描かれた葵の紋を葵の紋の時代別特徴を踏まえて、時代を特定し、調書の種別を工芸品とすれば町民の方にも納得していただけたらと思います。

島村委員長 長谷川委員の言っていた通りなのですが、新井委員の話から、調書に葵の紋の時代別特徴を加えれば分かりやすいと思います。

菊地委員 家康画像について色鮮やかで、保存状態は良いようですね。

島村委員長 桐の箱に納められていたので良い状態です。

河井主査 平成 25 年に資料館で行った西光院展の時は、家康画像を西光院から借用して展示しました。

横内主任 まだ、決定ではないのですが、今年の 10 月頃に埼玉県立歴史と民俗の博物館で徳川家康没後 400 周年の特別展が予定されていまして、西光院の徳川家康画像も会場に展示される予定です。

島村委員長 御朱印箱に描かれている葵の御紋には葉脈はないのですが、形は古いタイプの物です。歴史手帳に葵の紋の変遷は載っています。また、付けたりの標記ですが、西光院朱印状の後に 1 文字あけて付が来るようにすることでよろしいですね。指定文化財については前回の会議から議論していただきましたが、このような形でいいですか。今後、3月の教育委員会で建議をすることになりますので、もし確認したいことがありましたらお願いします。長年に渡り調査してきた成果をまとめさせていただきますので、教育委員会で建議していただけて年度内に指定することになりますのでよろしくをお願いします。

河井主査 こちらの調査報告書につきましては宮代町郷土資料館のホームページに PDF で掲載されています。

島村委員長 今後、家康画像を専門家に鑑定してもらうことを宿題にします。以上で文化財保護委員会を終わります。今回でご勇退される中村豊委員をお願いします。

中村豊委員

退任のあいさつ。

島村委員長

それでは事務局にお返しします。

佐藤室長

それでは、以上をもちまして、平成27年度第3回文化財保護委員会を終了させていただきます。